

きどきみられる」58名(21.9%)、「たいていみられる」138名(52.1%)、「いつもみられる」62名(23.4%)であった。(表3-9参照)

(2) 姿勢がよい(まっすぐである)

ケアに対する利用者の反応として「姿勢がよい(まっすぐである)」についての有効回答は259名であり、推測する感情状態は、「快」139名(53.7%)、「不快」15名(5.8%)、「どちらともいえない」105名(40.5%)であった。頻度については、「全くみられない」10名(3.9%)、「あまりみられない」32名(12.4%)、「ときどきみられる」54名(20.8%)、「たいていみられる」91名(35.1%)、「いつもみられる」72名(27.8%)であった。(表3-10参照)

(3) あなたをつねる

ケアに対する利用者の反応として「あなたをつねる」についての有効回答は226名であり、推測する感情状態は、「快」6名(2.7%)、「不快」164名(72.6%)、「どちらともいえない」56名(24.8%)であった。頻度については、「全くみられない」153名(67.7%)、「あまりみられない」43名(19.0%)、「ときどきみられる」26名(11.5%)、「たいていみられる」2名(0.9%)、「いつもみられる」2名(0.9%)であった。(表3-11参照)

(4) あなたから距離をとったり、別の場所(別の部屋など)へ行く

ケアに対する利用者の反応として「あなたから距離をとったり、別の場所(別の部屋など)へ行く」についての有効回答は249名であり、推測する感情状態は、「快」6名(2.4%)、「不快」141名(56.6%)、「どちらともいえない」102名(41.0%)であった。頻度については、「全くみられない」67名(26.9%)、「あまりみられない」73名(29.3%)、「ときどきみられる」84名(33.7%)、「たいていみられる」19名(7.6%)、「いつもみられる」6名(2.4%)であった。(表3-12参照)

(5) 自分の体を搔く

ケアに対する利用者の反応として「自分の体を搔く」についての有効回答は232名であり、推測する感情状態は、「快」5名(2.2%)、「不快」135名(58.2%)、「どちらともいえない」92名(39.7%)であった。頻度については、「全くみられない」86名(37.1%)、「あまりみられない」90名(38.8%)、「ときどきみられる」47名(20.3%)、「たいていみられる」7名(3.0%)、「いつもみられる」2名(0.9%)であった。(表3-13参照)

(6) 上半身を反らす

ケアに対する利用者の反応として「上半身を反らす」についての有効回答は222名であり、推測する感情状態は、「快」12名(5.4%)、「不快」89名(40.1%)、「どちらともいえない」121名(54.5%)であった。頻度については、「全くみられない」115名(51.8%)、「あまりみられない」67名(30.2%)、「ときどきみられ

る」38名(17.1%)、「たいていみられる」2名(0.9%)、「いつもみられる」0名(0.0%)であった。(表3-14参照)

(7) あなたから視線をそらす

ケアに対する利用者の反応として「あなたから視線をそらす」についての有効回答は244名であり、推測する感情状態は、「快」4名(1.6%)、「不快」149名(61.1%)、「どちらともいえない」91名(37.3%)であった。頻度については、「全くみられない」45名(18.4%)、「あまりみられない」96名(39.3%)、「ときどきみられる」90名(36.9%)、「たいていみられる」9名(3.7%)、「いつもみられる」4名(1.6%)であった。(表3-15参照)

(8) 貧乏ゆすりをする

ケアに対する利用者の反応として「貧乏ゆすりをする」についての有効回答は226名であり、推測する感情状態は、「快」1名(0.4%)、「不快」118名(52.2%)、「どちらともいえない」107名(47.3%)であった。頻度については、「全くみられない」158名(69.9%)、「あまりみられない」40名(17.7%)、「ときどきみられる」20名(8.8%)、「たいていみられる」7名(3.1%)、「いつもみられる」1名(0.4%)であった。(表3-16参照)

(9) 問いかけに対し、すぐに返事をする

ケアに対する利用者の反応として「問いかけに対し、すぐに返事をする」についての有効回答は258名であり、推測する感情状態は、「快」154名(59.7%)、「不快」13名(5.0%)、「どちらともいえない」91名(35.3%)であった。頻度については、「全くみられない」3名(1.2%)、「あまりみられない」17名(6.6%)、「ときどきみられる」44名(17.1%)、「たいていみられる」123名(47.7%)、「いつもみられる」71名(27.5%)であった。(表3-17参照)

(10) 肩をすくめる

ケアに対する利用者の反応として「肩をすくめる」についての有効回答は238名であり、推測する感情状態は、「快」38名(16.0%)、「不快」76名(31.9%)、「どちらともいえない」124名(52.1%)であった。頻度については、「全くみられない」69名(29.0%)、「あまりみられない」82名(34.5%)、「ときどきみられる」73名(30.7%)、「たいていみられる」10名(4.2%)、「いつもみられる」4名(1.7%)であった。(表3-18参照)

(11) 横を向く

ケアに対する利用者の反応として「横を向く」についての有効回答は243名であり、推測する感情状態は、「快」4名(1.6%)、「不快」147名(60.5%)、「どちらともいえない」92名(37.9%)であった。頻度については、「全くみられない」37名(15.2%)、「あまりみられない」94名(38.7%)、「ときどきみられる」96名(39.5%)、「たいていみられる」14名(5.8%)、「いつもみられる」2名(0.8%)

であった。(表3-19参照)

(12) 乱暴な言葉づかいで話す

ケアに対する利用者の反応として「乱暴な言葉づかいで話す」についての有効回答は242名であり、推測する感情状態は、「快」1名(0.4%)、「不快」208名(86.0%)、「どちらともいえない」33名(13.6%)であった。頻度については、「全くみられない」61名(25.2%)、「あまりみられない」57名(23.6%)、「ときどきみられる」93名(38.4%)、「たいていみられる」22名(9.1%)、「いつもみられる」9名(3.7%)であった。(表3-20参照)

(13) 顔に汗をかいている

ケアに対する利用者の反応として「顔に汗をかいている」についての有効回答は225名であり、推測する感情状態は、「快」0名(0.0%)、「不快」104名(46.2%)、「どちらともいえない」121名(53.8%)であった。頻度については、「全くみられない」97名(43.1%)、「あまりみられない」102名(45.3%)、「ときどきみられる」20名(8.9%)、「たいていみられる」5名(2.2%)、「いつもみられる」1名(0.4%)であった。(表3-21参照)

(14) 服・ハンカチなどをもてあそぶ

ケアに対する利用者の反応として「服・ハンカチなどをもてあそぶ」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」15名(6.4%)、「不快」79名(33.6%)、「どちらともいえない」141名(60.0%)であった。頻度については、「全くみられない」91名(38.7%)、「あまりみられない」74名(31.5%)、「ときどきみられる」48名(20.4%)、「たいていみられる」16名(6.8%)、「いつもみられる」6名(2.6%)であった。(表3-22参照)

(15) 笑顔をみせる

ケアに対する利用者の反応として「笑顔をみせる」についての有効回答は261名であり、推測する感情状態は、「快」245名(93.9%)、「不快」0名(0.0%)、「どちらともいえない」16名(6.1%)であった。頻度については、「全くみられない」1名(0.4%)、「あまりみられない」8名(3.1%)、「ときどきみられる」70名(26.8%)、「たいていみられる」119名(45.6%)、「いつもみられる」63名(24.1%)であった。(表3-23参照)

(16) 他者を指さす

ケアに対する利用者の反応として「他者を指さす」についての有効回答は248名であり、推測する感情状態は、「快」6名(2.4%)、「不快」114名(46.0%)、「どちらともいえない」128名(51.6%)であった。頻度については、「全くみられない」38名(15.3%)、「あまりみられない」84名(33.9%)、「ときどきみられる」110名(44.4%)、「たいていみられる」12名(4.8%)、「いつもみられる」4名(1.6%)であった。(表3-24参照)

(17) 握りこぶしをにぎる

ケアに対する利用者の反応として「握りこぶしをにぎる」についての有効回答は236名であり、推測する感情状態は、「快」3名(1.3%)、「不快」164名(69.5%)、どちらともいえない69名(29.2%)であった。頻度については、「全くみられない」100名(42.4%)、「あまりみられない」75名(31.8%)、「ときどきみられる」52名(22.0%)、「たいていみられる」5名(2.1%)、「いつもみられる」4名(1.7%)であった。(表3-25参照)

(18) あなたと握手する

ケアに対する利用者の反応として「あなたと握手する」についての有効回答は251名であり、推測する感情状態は、「快」219名(87.3%)、「不快」3名(1.2%)、「どちらともいえない」29名(11.6%)であった。頻度については、「全くみられない」17名(6.8%)、「あまりみられない」43名(17.1%)、「ときどきみられる」102名(40.6%)、「たいていみられる」67名(26.7%)、「いつもみられる」22名(8.8%)であった。(表3-26参照)

(19) 目をみひらく

ケアに対する利用者の反応として「目をみひらく」についての有効回答は241名であり、推測する感情状態は、「快」51名(21.2%)、「不快」62名(25.7%)、「どちらともいえない」128名(53.1%)であった。頻度については、「全くみられない」39名(16.2%)、「あまりみられない」84名(34.9%)、「ときどきみられる」93名(38.6%)、「たいていみられる」22名(9.1%)、「いつもみられる」3名(1.2%)であった。(表3-27参照)

(20) じっとしている

ケアに対する利用者の反応として「じっとしている」についての有効回答は250名であり、推測する感情状態は、「快」37名(14.8%)、「不快」38名(15.2%)、「どちらともいえない」175名(70.0%)であった。頻度については、「全くみられない」16名(6.4%)、「あまりみられない」59名(23.6%)、「ときどきみられる」120名(48.0%)、「たいていみられる」48名(19.2%)、「いつもみられる」7名(2.8%)であった。(表3-28参照)

(21) 髪を触る

ケアに対する利用者の反応として「髪を触る」についての有効回答は241名であり、推測する感情状態は、「快」47名(19.5%)、「不快」22名(9.1%)、「どちらともいえない」172名(71.4%)であった。頻度については、「全くみられない」52名(21.6%)、「あまりみられない」95名(39.4%)、「ときどきみられる」74名(30.7%)、「たいていみられる」13名(5.4%)、「いつもみられる」7名(2.9%)であった。(表3-29参照)

(22) うつむく

ケアに対する利用者の反応として「うつむく」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」2名 (0.8%)、「不快」124名 (50.2%)、「どちらともいえない」121名 (49.0%)であった。頻度については、「全くみられない」32名 (13.0%)、「あまりみられない」95名 (38.5%)、「ときどきみられる」99名 (40.1%)、「たいていみられる」17名 (6.9%)、「いつもみられる」4名 (1.6%)であった。(表3-30参照)

(23) 丁寧な言葉づかいで話す

ケアに対する利用者の反応として「丁寧な言葉づかいで話す」についての有効回答は 253 名であり、推測する感情状態は、「快」132名 (52.2%)、「不快」12名 (4.7%)、「どちらともいえない」109名 (43.1%)であった。頻度については、「全くみられない」16名 (6.3%)、「あまりみられない」45名 (17.8%)、「ときどきみられる」85名 (33.6%)、「たいていみられる」64名 (25.3%)、「いつもみられる」43名 (17.0%)であった。(表3-31参照)

(24) 微笑みながら話を聞く

ケアに対する利用者の反応として「微笑みながら話を聞く」についての有効回答は 257 名であり、推測する感情状態は、「快」231名 (89.9%)、「不快」0名 (0.0%)、「どちらともいえない」26名 (10.1%)であった。頻度については、「全くみられない」5名 (1.9%)、「あまりみられない」16名 (6.2%)、「ときどきみられる」76名 (44.7%)、「たいていみられる」115名 (44.7%)、「いつもみられる」45名 (17.5%)であった。(表3-32参照)

(25) 大きな声を出す

ケアに対する利用者の反応として「大きな声を出す」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」6名 (2.4%)、「不快」180名 (72.9%)、「どちらともいえない」61名 (24.7%)であった。頻度については、「全くみられない」48名 (19.4%)、「あまりみられない」71名 (28.7%)、「ときどきみられる」94名 (38.1%)、「たいていみられる」19名 (7.7%)、「いつもみられる」15名 (6.1%)であった。(表3-33参照)

(26) 話を長く続ける

ケアに対する利用者の反応として「話を長く続ける」についての有効回答は 256 名であり、推測する感情状態は、「快」105名 (41.0%)、「不快」51名 (19.9%)、「どちらともいえない」100名 (39.1%)であった。頻度については、「全くみられない」15名 (5.9%)、「あまりみられない」56名 (21.9%)、「ときどきみられる」107名 (41.8%)、「たいていみられる」57名 (22.3%)、「いつもみられる」21名 (8.2%)であった。(表3-34参照)

(27) 涙ぐむ

ケアに対する利用者の反応として「涙ぐむ」についての有効回答は 241 名で

あり、推測する感情状態は、「快」20名(8.3%)、「不快」110名(45.6%)、「どちらともいえない」111名(46.1%)であった。頻度については、「全くみられない」66名(27.4%)、「あまりみられない」80名(33.2%)、「ときどきみられる」81名(33.6%)、「たいていみられる」13名(5.4%)、「いつもみられる」1名(0.4%)であった。(表3-35参照)

(28) うなづく

ケアに対する利用者の反応として「うなづく」についての有効回答は252名であり、推測する感情状態は、「快」142名(56.3%)、「不快」8名(3.2%)、「どちらともいえない」102名(40.5%)であった。頻度については、「全くみられない」6名(2.4%)、「あまりみられない」26名(10.3%)、「ときどきみられる」95名(37.7%)、「たいていみられる」89名(35.3%)、「いつもみられる」36名(14.3%)であった。(表3-36参照)

(29) あなたの腕や肩に触れる

ケアに対する利用者の反応として「あなたの腕や肩に触れる」についての有効回答は247名であり、推測する感情状態は、「快」162名(65.6%)、「不快」9名(3.6%)、「どちらともいえない」76名(30.8%)であった。頻度については、「全くみられない」28名(11.3%)、「あまりみられない」51名(20.6%)、「ときどきみられる」98名(39.7%)、「たいていみられる」46名(18.6%)、「いつもみられる」24名(9.7%)であった。(表3-37参照)

(30) 顔が無表情である

ケアに対する利用者の反応として「顔が無表情である」についての有効回答は244名であり、推測する感情状態は、「快」1名(0.4%)、「不快」123名(50.4%)、「どちらともいえない」120名(49.2%)であった。頻度については、「全くみられない」47名(19.3%)、「あまりみられない」77名(31.6%)、「ときどきみられる」91名(37.3%)、「たいていみられる」18名(7.4%)、「いつもみられる」11名(4.5%)であった。(表3-38参照)

(31) 爪を噛む

ケアに対する利用者の反応として「爪を噛む」についての有効回答は222名であり、推測する感情状態は、「快」2名(0.9%)、「不快」96名(43.2%)、「どちらともいえない」124名(55.9%)であった。頻度については、「全くみられない」185名(83.3%)、「あまりみられない」32名(14.4%)、「ときどきみられる」3名(1.4%)、「たいていみられる」1名(0.5%)、「いつもみられる」1名(0.5%)であった。(表3-39参照)

(32) 脚をくむ

ケアに対する利用者の反応として「脚をくむ」についての有効回答は230名であり、推測する感情状態は、「快」25名(10.9%)、「不快」23名(10.0%)、「ど

ちらともいえない」182名(79.1%)であった。頻度については、「全くみられない」122名(53.0%)、「あまりみられない」42名(18.3%)、「ときどきみられる」45名(19.6%)、「たいていみられる」12名(5.2%)、「いつもみられる」9名(3.9%)であった。(表3-40参照)

(33) 顔色が蒼白い

ケアに対する利用者の反応として「顔色が蒼白い」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」2名(0.9%)、「不快」143名(60.9%)、「どちらともいえない」90名(38.3%)であった。頻度については、「全くみられない」106名(45.1%)、「あまりみられない」95名(40.4%)、「ときどきみられる」25名(10.6%)、「たいていみられる」4名(1.7%)、「いつもみられる」5名(2.1%)であった。(表3-41参照)

(34) 話し声が小さい

ケアに対する利用者の反応として「話し声が小さい」についての有効回答は248名であり、推測する感情状態は、「快」12名(4.8%)、「不快」64名(25.8%)、「どちらともいえない」172名(69.4%)であった。頻度については、「全くみられない」69名(27.8%)、「あまりみられない」92名(37.1%)、「ときどきみられる」56名(22.6%)、「たいていみられる」21名(8.5%)、「いつもみられる」10名(4.0%)であった。(表3-42参照)

(35) 身を乗り出す

ケアに対する利用者の反応として「身を乗り出す」についての有効回答は247名であり、推測する感情状態は、「快」120名(48.6%)、「不快」23名(9.3%)、「どちらともいえない」104名(42.1%)であった。頻度については、「全くみられない」26名(10.5%)、「あまりみられない」72名(29.1%)、「ときどきみられる」110名(44.5%)、「たいていみられる」34名(13.8%)、「いつもみられる」5名(2.0%)であった。(表3-43参照)

(36) 繰り返し首を横に振る

ケアに対する利用者の反応として「繰り返し首を横に振る」についての有効回答は233名であり、推測する感情状態は、「快」4名(1.7%)、「不快」143名(61.4%)、「どちらともいえない」86名(36.9%)であった。頻度については、「全くみられない」99名(42.5%)、「あまりみられない」92名(39.5%)、「ときどきみられる」37名(15.9%)、「たいていみられる」4名(1.7%)、「いつもみられる」1名(0.4%)であった。(表3-44参照)

(37) 他の利用者や周囲に気を配る

ケアに対する利用者の反応として「他の利用者や周囲に気を配る」についての有効回答は246名であり、推測する感情状態は、「快」118名(48.0%)、「不快」24名(9.8%)、「どちらともいえない」104名(42.3%)であった。頻度について

は、「全くみられない」18名(7.3%)、「あまりみられない」45名(18.3%)、「ときどきみられる」100名(40.7%)、「たいていみられる」50名(20.3%)、「いつもみられる」33名(13.4%)であった。(表3-45参照)

(38) 手を繰り返し動かす

ケアに対する利用者の反応として「手を繰り返し動かす」についての有効回答は237名であり、推測する感情状態は、「快」30名(12.7%)、「不快」63名(26.6%)、「どちらともいえない」144名(60.8%)であった。頻度については、「全くみられない」80名(33.8%)、「あまりみられない」81名(34.2%)、「ときどきみられる」47名(19.8%)、「たいていみられる」24名(10.1%)、「いつもみられる」5名(2.1%)であった。(表3-46参照)

(39) 話を途中でやめる

ケアに対する利用者の反応として「話を途中でやめる」についての有効回答は245名であり、推測する感情状態は、「快」3名(1.2%)、「不快」143名(58.4%)、「どちらともいえない」99名(40.4%)であった。頻度については、「全くみられない」47名(19.2%)、「あまりみられない」103名(42.0%)、「ときどきみられる」76名(31.0%)、「たいていみられる」15名(6.1%)、「いつもみられる」4名(1.6%)であった。(表3-47参照)

(40) 顔が赤面している

ケアに対する利用者の反応として「顔が赤面している」についての有効回答は239名であり、推測する感情状態は、「快」11名(4.6%)、「不快」95名(39.7%)、「どちらともいえない」133名(55.6%)であった。頻度については、「全くみられない」74名(31.0%)、「あまりみられない」95名(39.7%)、「ときどきみられる」55名(23.0%)、「たいていみられる」13名(5.4%)、「いつもみられる」2名(0.8%)であった。(表3-48参照)

(41) あなたを叩く

ケアに対する利用者の反応として「あなたを叩く」についての有効回答は228名であり、推測する感情状態は、「快」3名(1.3%)、「不快」170名(74.6%)、「どちらともいえない」55名(24.1%)であった。頻度については、「全くみられない」139名(61.0%)、「あまりみられない」42名(18.4%)、「ときどきみられる」40名(17.5%)、「たいていみられる」4名(1.8%)、「いつもみられる」3名(1.3%)であった。(表3-49参照)

(42) あなたに近づく

ケアに対する利用者の反応として「あなたに近づく」についての有効回答は253名であり、推測する感情状態は、「快」127名(50.2%)、「不快」17名(6.7%)、「どちらともいえない」109名(43.1%)であった。頻度については、「全くみられない」23名(9.1%)、「あまりみられない」31名(12.3%)、「ときどきみられる」

99名(39.1%)、「たいていみられる」61名(24.1%)、「いつもみられる」39名(15.4%)であった。(表3-50参照)

(43) 鼻や口を触る

ケアに対する利用者の反応として「鼻や口を触る」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」18名(7.7%)、「不快」40名(17.0%)、「どちらともいえない」177名(75.3%)であった。頻度については、「全くみられない」101名(43.0%)、「あまりみられない」92名(39.1%)、「ときどきみられる」31名(13.2%)、「たいていみられる」6名(2.6%)、「いつもみられる」5名(2.1%)であった。(表3-51参照)

(44) 腕組みをする

ケアに対する利用者の反応として「腕組みをする」についての有効回答は229名であり、推測する感情状態は、「快」11名(4.8%)、「不快」67名(29.3%)、「どちらともいえない」151名(65.9%)であった。頻度については、「全くみられない」102名(44.5%)、「あまりみられない」61名(26.6%)、「ときどきみられる」50名(21.8%)、「たいていみられる」11名(4.8%)、「いつもみられる」5名(2.2%)であった。(表3-52参照)

(45) あなたの手まねをする

ケアに対する利用者の反応として「あなたの手まねをする」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」78名(33.2%)、「不快」11名(4.7%)、「どちらともいえない」146名(62.1%)であった。頻度については、「全くみられない」122名(51.9%)、「あまりみられない」62名(26.4%)、「ときどきみられる」33名(14.0%)、「たいていみられる」16名(6.8%)、「いつもみられる」2名(0.9%)であった。(表3-53参照)

4. 認知症ケアに対する意識

1) 認知症ケアに対する意識

認知症ケアに対する意識について、パーソンセンタードケアにおける相互作用を持続させる関わりと、相互作用を中断させる関わり方に関する各項目に対する回答の分布は以下の通りであった。(表3-54参照)

(1) 高齢者がやろうとしていることに気づき対応する

認知症ケアに対する意識について「高齢者がやろうとしていることに気づき対応する」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」1名(0.4%)、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」35名(13.3%)、「たいていしている」170名(64.4%)、「いつもしている」55名(20.8%)であった。

(2) 高齢者とのやり取りを急いで、自然なペースに任せない

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りを急いで、自然なペ

ースに任せない」についての有効回答は 263 名であり、「全くしていない」52 名 (19.8%)、「あまりしていない」120 名 (45.6%)、「ときどきしている」60 名 (22.8%)、「たいていしている」25 名 (9.5%)、「いつもしている」6 名 (2.3%) であった。

- (3) やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている

認知症ケアに対する意識について「やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている」についての有効回答は 263 名であり、「全くしていない」1 名 (0.4%)、「あまりしていない」16 名 (6.1%)、「ときどきしている」82 名 (31.2%)、「たいていしている」136 名 (51.7%)、「いつもしている」28 名 (10.6%) であった。

- (4) 高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる

認知症ケアに対する意識について「高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる」についての有効回答は 262 名であり、「全くしていない」0 名 (0.0%)、「あまりしていない」5 名 (1.9%)、「ときどきしている」42 名 (16.0%)、「たいていしている」174 名 (66.4%)、「いつもしている」41 名 (15.6%) であった。

- (5) 高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす

認知症ケアに対する意識について「高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす」についての有効回答は 261 名であり、「全くしていない」75 名 (28.7%)、「あまりしていない」137 名 (52.5%)、「ときどきしている」43 名 (16.5%)、「たいていしている」5 名 (1.9%)、「いつもしている」1 名 (0.4%) であった。

- (6) 高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する

認知症ケアに対する意識について「高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する」についての有効回答は 262 名であり、「全くしていない」78 名 (29.8%)、「あまりしていない」132 名 (50.4%)、「ときどきしている」20 名 (7.6%)、「たいていしている」24 名 (9.2%)、「いつもしている」8 名 (3.1%) であった。

- (7) 高齢者が経験し、感じていることに共感する

認知症ケアに対する意識について「高齢者が経験し、感じていることに共感する」についての有効回答は 263 名であり、「全くしていない」0 名 (0.0%)、「あまりしていない」1 名 (0.4%)、「ときどきしている」26 名 (9.9%)、「たいていしている」149 名 (56.7%)、「いつもしている」87 名 (33.1%) であった。

- (8) 高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする

認知症ケアに対する意識について「高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする」についての有効回答は262名であり、「全くしていない」142名(54.2%)、「あまりしていない」109名(41.6%)、「ときどきしている」10名(3.8%)、「たいていしている」0名(0.0%)、「いつもしている」1名(0.4%)であった。

(9) 高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う

認知症ケアに対する意識について「高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う」についての有効回答は263名であり、「全くしていない」1名(0.4%)、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」27名(10.3%)、「たいていしている」179名(68.1%)、「いつもしている」53名(20.2%)であった。

(10) 施設や介護者側の考えにしたがってもらう

認知症ケアに対する意識について「施設や介護者側の考えにしたがってもらう」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」85名(32.2%)、「あまりしていない」112名(42.4%)、「ときどきしている」63名(23.9%)、「たいていしている」3名(1.1%)、「いつもしている」1名(0.4%)であった。

(11) ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する

認知症ケアに対する意識について「ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」1名(0.4%)、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」21名(8.0%)、「たいていしている」177名(67.0%)、「いつもしている」62名(23.5%)であった。

(12) 高齢者の見方が間違っただのものであってもそれに合わせる

認知症ケアに対する意識について「高齢者の見方が間違っただのものであってもそれに合わせる」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」6名(2.3%)、「あまりしていない」18名(6.8%)、「ときどきしている」74名(28.0%)、「たいていしている」143名(54.2%)、「いつもしている」23名(8.7%)であった。

(13) 高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける」についての有効回答は261名であり、「全くしていない」4名(1.5%)、「あまりしていない」11名(4.2%)、「ときどきしている」64名(24.5%)、「たいていしている」150名(57.5%)、「いつもしている」32名(12.3%)であった。

(14) 高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている」についての有効回答は262名であり、「全くしてい

ない」5名(1.9%)、「あまりしていない」12名(4.6%)、「ときどきしている」75名(28.6%)、「たいていしている」148名(56.5%)、「いつもしている」22名(8.4%)であった。

(15) 記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう

認知症ケアに対する意識について「記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」0名(0.0%)、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」40名(15.2%)、「たいていしている」159名(60.2%)、「いつもしている」62名(23.5%)であった。

(16) 高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」37名(14.0%)、「あまりしていない」170名(64.4%)、「ときどきしている」49名(18.6%)、「たいていしている」6名(2.3%)、「いつもしている」2名(0.8%)であった。

(17) 高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する

認知症ケアに対する意識について「高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する」についての有効回答は261名であり、「全くしていない」0名(0.0%)、「あまりしていない」5名(1.9%)、「ときどきしている」55名(21.1%)、「たいていしている」144名(55.2%)、「いつもしている」57名(21.8%)であった。

5. 認知症介護経験について

1) 認知症経験年数

認知症介護の経験期間の平均は、約11年4か月(137.57か月[SD68.34、範囲9-396])であった。

2) 直近の認知症介護

認知症介護を行った直近日については有効回答252名で、平均日数は11.21日(SD:67.59、範囲0[当日]-730)であった。

3) 認知症介護頻度

現在の認知症介護の頻度は、「毎日」162名(61.4%)、「週に数回」62名(23.5%)、「月に数回」25名(9.5%)、「年に数回」2名(0.8%)、「しばらくしていない」13名(4.9%)であった。(表3-55参照)

4) 認知症介護成功体験

これまで行った認知症介護で「うまくいった」あるいは「成功した」と認識した経験の頻度は、「今までに数回」15名(5.8%)、「年に数回くらい」40名(15.4%)、「月に数回くらい」81名(31.2%)、「週に数回くらい」62名(23.8%)、「いつも経験した

（毎日）」25名（9.6%）、「ほぼすべての介護で経験した」35名（13.5%）、「一度も経験したことがない」2名（0.8%）であった。（表3-56参照）

6. 評価項目の選択について

高齢者の感情状態の評価について、認知症介護の評価シートにおける介護結果の評価指標としての項目選択を行った。感情状態の評価45項目について、感情状態の推測と頻度ともに有効回答における該当率を用いて、Ward法によるクラスター分析を行った。

デンドログラム（樹形図）により3クラスターによる解釈を行った。3クラスターの分類は「快」、「不快」、「どちらともいえない」の評価による分類であると考えられる。さらに、デンドログラムにより、6クラスターを採用した場合には、評価による分類に加えて、相対的な頻度の高低によって分類されたと考えることができる。そのため、ここでは6クラスターによる分類を採用し、「快」または「不快」を示し、相対的な頻度の高い項目をアウトカム評価の指標として採用した。45項目の中から、「快」の項目として、「笑顔を見せる」、「あなたと握手する」、「微笑みながら見ながら話を聞く」3項目、「不快」の項目として、「あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く」、「あなたから視線をそらす」、「横を向く」、「乱暴な言葉づかいで話す」、「他者を指さす」、「うつむく」、「大きな声を出す」、「涙ぐむ」、「顔を無表情である」、「話を途中でやめる」の10項目を採用した。（表3-57参照）

7. 認知症ケアに対する意識について

1) 認知症ケアに対する意識に関する項目についての因子分析

認知症ケアに対する意識に関する17項目について、各項目に対する回答を「全くしていない」を1点～「いつもしている」5点に得点化し、因子分析を行った。

「高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける」の1項目については、複数の因子にまたがって因子負荷量が高かったため削除したうえで、再度因子分析（主成分法、プロマックス回転）を行った。スクリープロットを参考に固有値の変化から2因子を採用し、第1因子を「相互作用持続」因子、第2因子を「相互作用中断」因子と命名した（表3-58参照）。2因子間の相関係数は-.44と中程度の負の相関が認められた。（表3-59参照）

2) 認知症介護の成功体験との関係

「5-4）」において、既述した認知症介護成功体験と認知症介護に対する意識との関係を検討した。認知症介護成功体験については、「1. 今までに数回」、「2. 年に数回くらい」、「3. 月に数回くらい」とともに「7. 一度も経験したことがない」を選択したものを「成功頻度低群」とし、「4. 週に数回くらい」、「5. いつも経験した（毎日）」、「6. ほぼすべての介護で経験した」を選択したものを「成功頻度高群」として2群

に分けた。相互作用持続因子の因子得点は、頻度低群-0.27 (SD:0.89)、頻度高群 0.27 (SD:1.02) であった。相互作用中断因子の因子得点は、頻度低群 0.17 (SD:1.02)、頻度高群-0.16 (SD:0.93) であった。成功頻度による 2 群を独立変数とし、相互作用持続因子、相互作用中断因子それぞれの因子得点を t 検定によって比較した。その結果、「相互作用持続」因子の因子得点は、成功頻度低群に比べて高群の方が有意に高かった ($t(244) = 4.46, p < .0001$)。「相互作用中断」因子の因子得点は、成功体験高群に比べて低群の方が有意に高かった ($t(244) = 2.62, p < .009$)。

これらのことから、成功頻度を高く評価することは、認知症介護における相互作用を継続する意識を持つことと関連しているということが見出された。

8. 認知症ケアへの意識による評価の相違

「7.」において、認知症介護の成功体験と認知症ケアに対する意識について関連が見出されたが、さらに、認知症ケアに対する意識が介護のアウトカム評価に影響するかを検討した。認知症ケアに対する意識については「相互作用継続」因子を構成する項目において α 係数から信頼性が十分に高いことが示されたため、「相互作用継続」因子の因子得点の高低により 2 群に分けた。アウトカム評価としては、感情状態の評価項目のうちクラスター分析によって、評価困難（どちらともいえない）かつ相対的な頻度の高い項目（目をみひらく、じっとしている、髪を触る）を対象とし、クロス集計表に示すとともに χ^2 検定をおこなった。

その結果、目をみひらく ($\chi^2(2) = 1.44, n.s.$)、髪を触る ($\chi^2(2) = 2.96, n.s.$) においては、有意な度数の偏りは認められなかった。じっとしているについては、有意な度数の偏りが認められた ($\chi^2(2) = 9.99, p < .007$)。また、残差分析の結果、相互作用継続因子の因子得点低群では「どちらともいえない」という評価の頻度が有意に高く、因子得点高群では「不快」という評価の頻度が有意に高かった。

D. 結論

認知症ケアのエキスパートの視点から、ケアに対する高齢者の反応をどのようにとらえているかを検討した。その結果、介護者は笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から利用者の快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にもみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが、比較的頻度の高いものでは、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、評価項目に対して「どちらともいえない」という回答が多数であり、それぞれの行動・様子が、ひとつの項目で示される単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられる。また、高齢者本人の癖であ

ったり、パーソナリティを反映した行動・様子であるため感情表出としてとらえられないということも考えられる。そのため、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要がある。

表3-1 調査協力者の性別の内訳

	度数	パーセント	累積パーセント
男性	91	34.0	34.0
女性	177	66.0	100
合計	268	100	

表3-2 職種（複数回答）

	度数	パーセント
ケアワーカー	65	24.1
相談員	40	14.8
ケアマネジャー	68	25.2
看護師	52	19.3
その他	60	22.2

表3-3 役職（複数回答）

	度数	パーセント
施設長	28	10.4
管理者	91	33.7
主任・リーダー	76	28.1
事務長	3	1.1
社長	5	1.9
理事長	2	0.7
その他	66	24.4

表3-4 所持資格（複数回答）

	度数	パーセント
看護師（準看護師）	66	24.4
介護福祉士	156	57.8
社会福祉士	45	16.7
ケアマネジャー	171	63.3
ヘルパー	29	10.7
理学療法士	2	0.7
作業療法士	3	1.1
栄養士	2	0.7
その他	37	13.7

表3-5 勤務している事業所の事業種（複数回答）

	度数	パーセント
介護老人福祉施設	84	31.1
介護老人保健施設	131	48.5
介護療養型医療施設	7	2.6
通所介護事業	31	11.5
通所リハビリ事業	6	2.2
訪問介護事業	16	5.9
認知症対応型共同生活介護	65	24.1
小規模多機能型共同生活介護	13	4.8
居宅介護支援事業所	24	8.9
地域包括支援センター	3	1.1
市役所	2	0.7
宅老所	2	0.7
特定入居者生活介護事業	3	1.1
その他	27	10.0

表3-6 評価対象として想定した高齢者の性別

	度数	パーセント	累積パーセント
男性	60	23.1	23.1
女性	200	76.9	100
合計	260	100	

表3-7 評価対象として想定した高齢者の認知症自立度

	度数	パーセント	累積パーセント
I	14	5.2	5.2
II	65	24.3	29.6
III	92	34.5	64.0
IV	88	33.0	97.0
M	8	3.0	100
合計	267	100	

表3-8 評価対象として想定した高齢者の障害自立度

	度数	パーセント	累積パーセント
J	68	25.8	25.8
A	159	60.2	86.0
B	32	12.1	98.1
C	5	1.9	100
合計	264	100	

表3-9 「視線を合わせる、顔を見つめる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	19	104	49	173
不快	1	1	8	2	0	12
どちらともいえない	0	4	31	32	13	80
合計	1	6	58	138	62	265

表3-10 「姿勢がよい（まっすぐである）」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	10	24	52	53	139
不快	3	3	2	4	3	15
どちらともいえない	7	19	28	35	16	105
合計	10	32	54	91	72	259

表3-11 「あなたをつねる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	5	0	1	0	0	6
不快	105	35	20	2	2	164
どちらともいえない	43	8	5	0	0	56
合計	153	43	26	2	2	226

表3-12 「あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	2	1	1	2	6
不快	35	38	54	11	3	141
どちらともいえない	32	33	29	7	1	102
合計	67	73	84	19	6	249

表3-13 「自分の体を搔く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	3	1	1	0	5
不快	42	53	32	6	2	135
どちらともいえない	44	34	14	0	0	92
合計	86	90	47	7	2	232

表3-14 「上半身を反らす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	4	7	0	0	12
不快	49	21	18	1	0	89
どちらともいえない	65	42	13	1	0	121
合計	115	67	38	2	0	222

表3-15 「あなたから視線をそらす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	0	1	0	1	4
不快	26	53	62	6	2	149
どちらともいえない	17	43	27	3	1	91
合計	45	96	90	9	4	244

表3-16 「貧乏ゆすりをする」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	1	0	1
不快	77	21	16	3	1	118
どちらともいえない	81	19	4	3	0	107
合計	158	40	20	7	1	226

表3-17 「問いかけに対し、すぐに返事をする」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	2	21	81	49	154
不快	0	2	9	0	2	13
どちらともいえない	2	13	14	42	20	91
合計	3	17	44	123	71	258

表3-18 「肩をすくめる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	3	26	6	3	38
不快	20	32	21	3	0	76
どちらともいえない	49	47	26	1	1	124
合計	69	82	73	10	4	238

表3-19 「横を向く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	3	0	0	4
不快	17	53	66	10	1	147
どちらともいえない	20	40	27	4	1	92
合計	37	94	96	14	2	243

表3-20 「乱暴な言葉づかいで話す」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	0	1	1
不快	42	50	89	20	7	208
どちらともいえない	19	7	4	2	1	33
合計	61	57	93	22	9	242

表3-21 「顔に汗をかいている」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	0	0	0
不快	39	50	11	3	1	104
どちらともいえない	58	52	9	2	0	121
合計	97	102	20	5	1	225

表3-22 「服・ハンカチなどをもてあそぶ」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	3	6	3	1	15
不快	26	21	22	7	3	79
どちらともいえない	63	50	20	6	2	141
合計	91	74	48	16	6	235

表3-23 「笑顔をみせる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	5	67	113	60	245
不快	0	0	0	0	0	0
どちらともいえない	1	3	3	6	3	16
合計	1	8	70	119	63	261